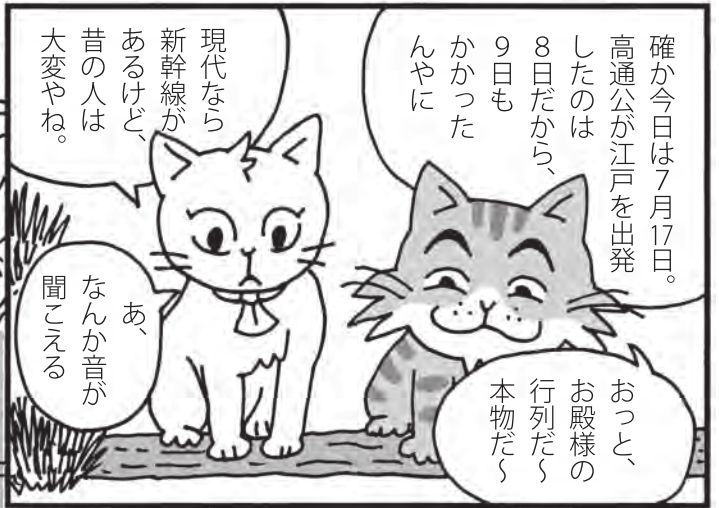
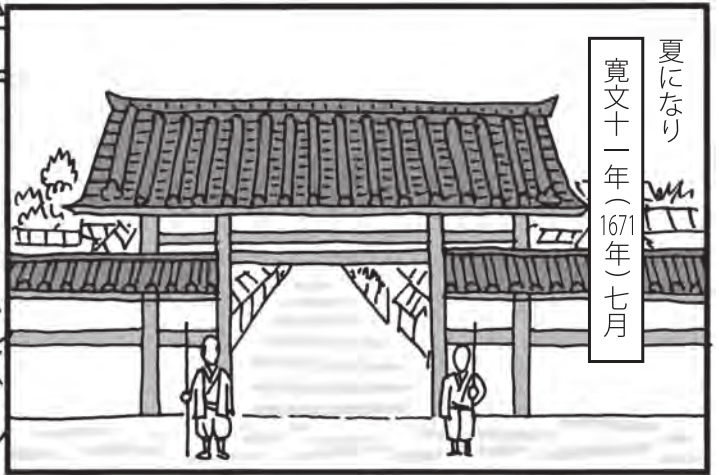


夏になり

寛文十一年（1671年）七月



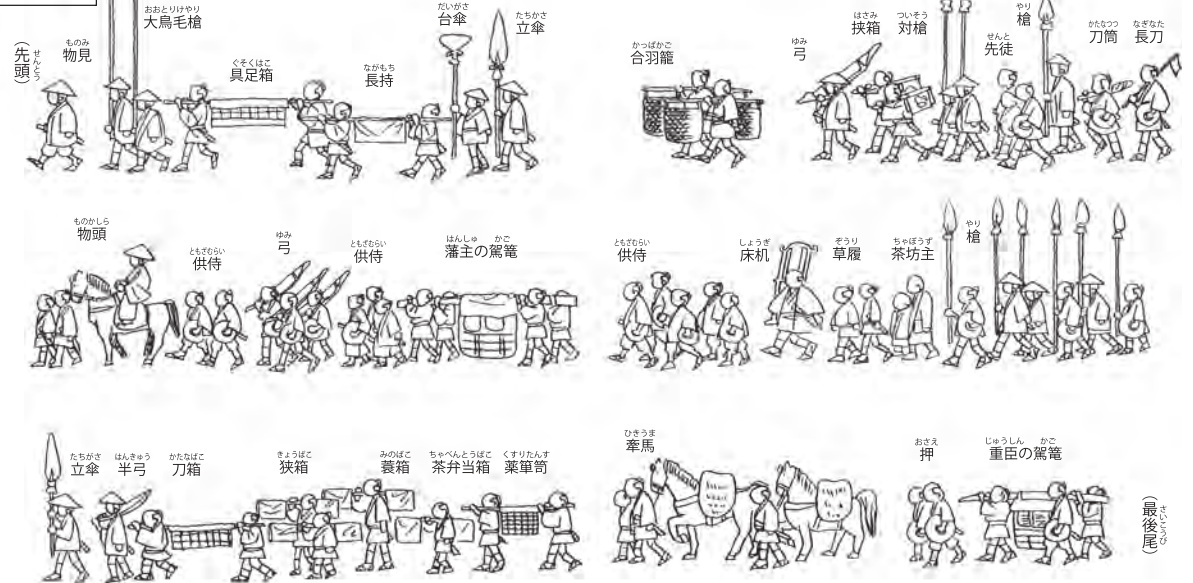
コラム 6

参勤交代

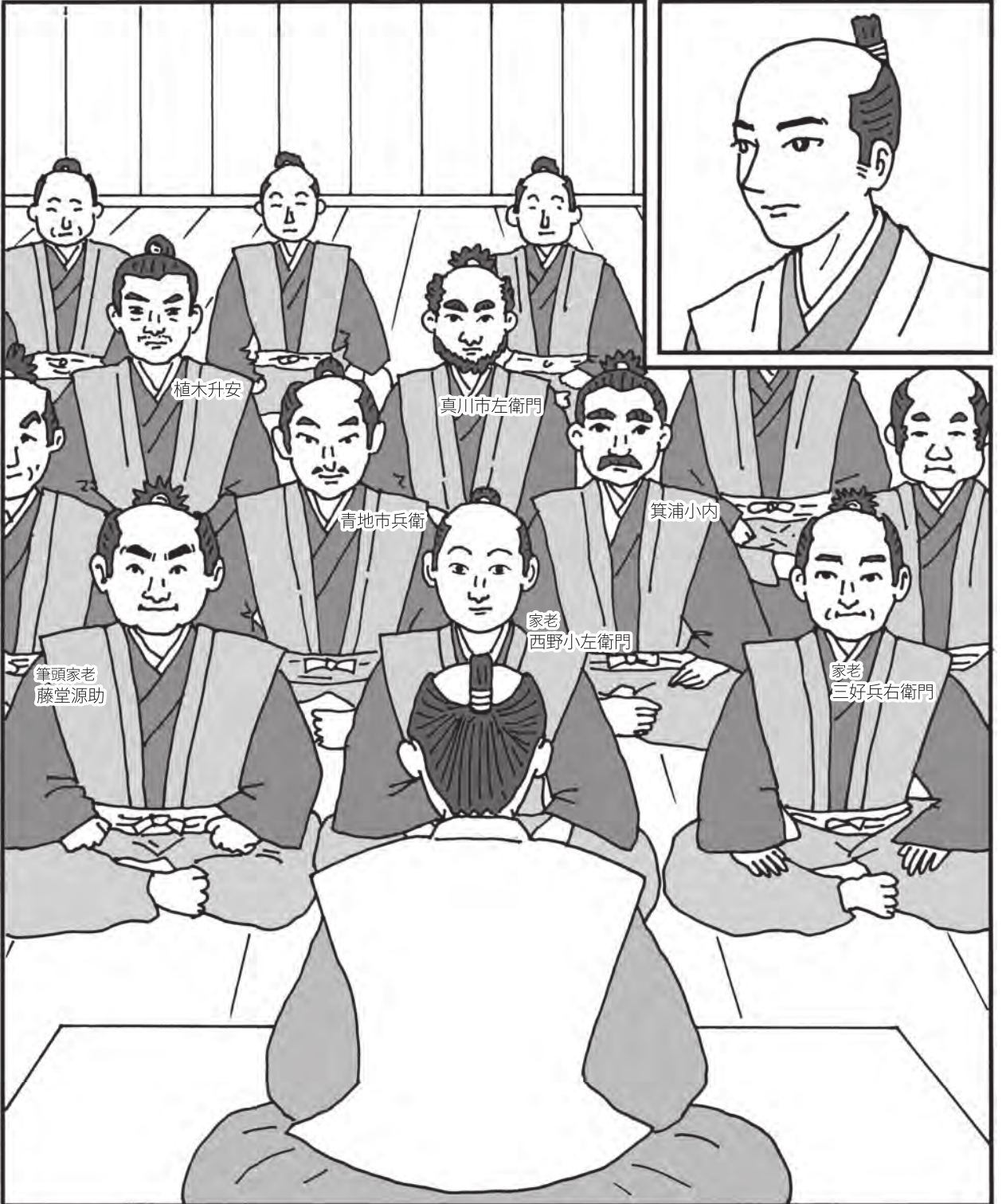
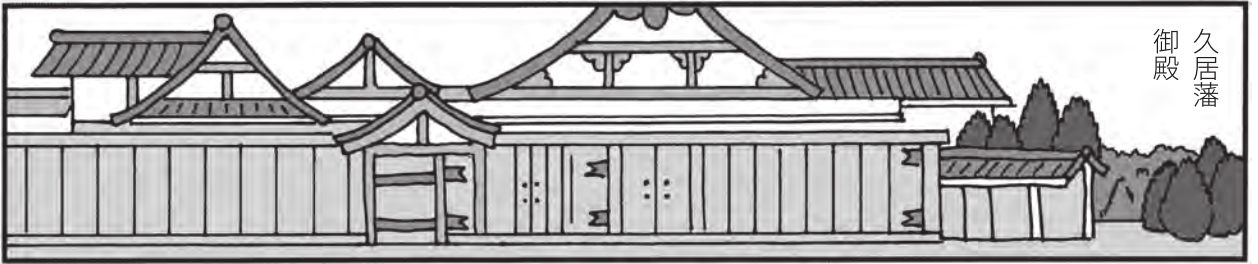
大名が毎年4月に自分の領地と江戸を1年交替で行き来するように定めた制度。

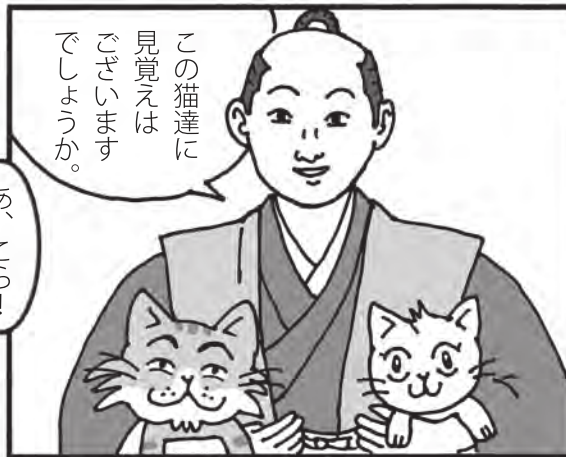
江戸と領地を往来する際の大名行列は、各大家の石高や格によってその規模などが定められました。久居藩の行列は当初は100人前後でしたが、幕府からの人数制限に伴い、15代藩主高聴の頃は69人となりました。

大名行列



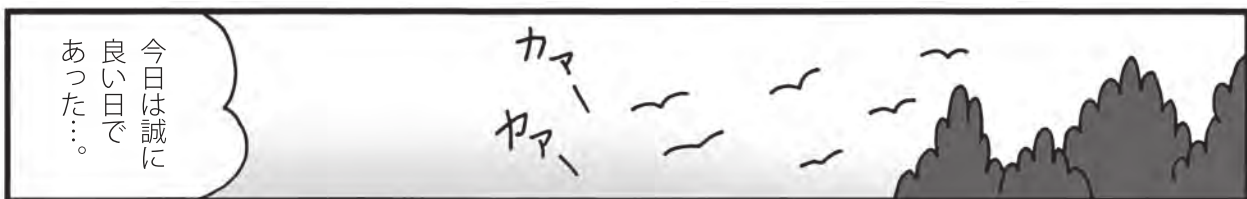












コラム7

俳人大名
高通

高通は文学を好み、京都の有名な学者を藩に迎え入れ、教育の基礎を作りました。特に、和歌や俳句に優れ、「任口」と号して名句を数多く残しました。

久居に入府後、最初の正月に久居藩の末永い繁栄を願って詠んだ句

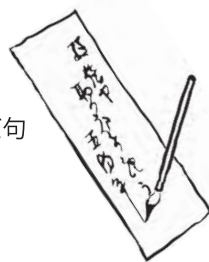
「穂俵や取り初め祝ふ五萬年」

俳人・北村季吟を久居に招いた際に、雲出川で獲れる鮎の美味しさを自慢して詠んだ句

「鮎は何とさか松たけに雲出川」

北村季吟と共に久居を訪れた北村湖春（季吟の子）が、御殿の完成を祝い詠んだ句

「くたら野も今やしらの殿造」







津藩と久居藩
藩主系図

